

ジアムバー分析試験 08 レジオネラ試験



試験報告書 (副)

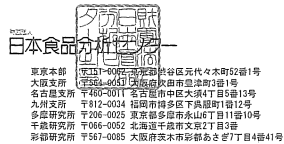
第 208021303-001 号
2008年(平成20年)03月27日

依頼者 清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)

検体 本報告書中

表題 殺菌効果試験

2008年(平成20年)03月04日当センターに提出された
上記検体について試験した結果は次のとおりです。



本報告書と別に掲載する場合は当センターの同意を受けて下さい。



第 208021303-001 号 page 1/2

殺菌効果試験

- 依頼者
清水建設株式会社(環境・蒸気洗浄研究会)
- 検体
1) ハイパワー酸化水(ジアムバー)50ppm
2) ハイパワー酸化水(ジアムバー)100ppm
- 試験目的
検体のレジオネラに対する殺菌効果を試験する。
- 試験概要
検体にレジオネラの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 20℃で保存し、15、60及び180秒後に試験液中の生菌数を測定した。
なお、あらかじめ予備試験を行い、生菌数の測定方法について検討した。
- 試験結果
結果を表-1に示した。
なお、試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより、検体の影響を受けずに生菌数が測定できることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数

試験菌	対象	生菌数 (cfu/ml)			
		開始時*	15秒後	60秒後	180秒後
レジオネラ	検体1)	1.3×10^6	<100	<100	<100
	検体2)	1.3×10^6	<100	<100	<100
	対照	1.3×10^6	-	-	7.3×10^5

<100: 検出せず
対照: 精製水
保存温度: 20℃
-: 実施せず
* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

©2008 日本食品分析センター



第 208021303-001 号 page 2/2

6 試験方法

- 試験菌株
Legionella pneumophila GIFU 9134(レジオネラ)
- 菌数測定用培地及び培養条件
B-CYE α寒天培地[栄研化学株式会社]、平板塗抹培養法、35℃±1℃、7日間
- 菌液の調製
試験菌をB-CYE α寒天培地で35℃±1℃、3日間培養後、再度B-CYE α寒天培地で35℃±1℃、2日間培養し、菌体を精製水に浮遊させ、菌数が約 10^6 /mlとなるように調製し、菌液とした。
- 試験操作
検体10 mlに菌液を0.1 ml接種し、試験液とした。20℃±1℃で保存し、15、60及び180秒後に試験液をSCDLP培地[日本製菓株式会社]で直ちに10倍に希釈し、試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。
なお、対照として精製水を用いて同様に試験し、開始時及び180秒後に生菌数を測定した。

以 上

©2008 日本食品分析センター